

世界国勢図会^す_之

財団法人 矢野恒太記念会編

国勢社

世界国勢図会^す_之

財団法人 矢野恒太記念会編

西安

子科技大学へ

寄贈

一九八八年九月三十日

米田清貴

© 矢野恒太記念会 1985

1985年（昭和60年）12月10日発行

世界国勢図会

編 者 財団法人 矢野恒太記念会

編集長 森 嵩

発行所 株式会社 国 勢 社

代表 濱 田 陸 男

〒141 東京都品川区西五反田 2-19-3 第一生命ビル内

電話 { 営業 (03) 492-5878, 3267
{ 編集 (03) 492-5264, 3268

振替 東京 2-376

定 価 1,600円

乱丁・落丁本はお取りかえいたします。

印刷／大日本印刷

ISBN 4-87549-404-1

まえがき

「日本国勢図会」は、1927年（昭和2年）に、故矢野恒太翁*により創刊されました。それ以来、43版を重ね、多くの読者をえてきました。ことに最近の20年ほどは、出版部数が大幅に伸びました。

それとともに、年々発行される国勢図会では、不十分なことが目立ってまいりました。第1には、古い時代の資料が十分でないという点であります。第2としては、国際的な統計を拡充できないかという要望も多くなってきました。第3に、国内の地域別の資料を充実したいという考えも出てまいりました。

そういうわけで、1981年に「数字でみる日本の100年」を刊行いたしました。ついで、国際統計の出版が予定されましたが、当財団内での体制がととのわず、のびのびになっていました。準備ができて、本書の編纂にとりかかったのは、昨年5月からでありましたが、事実上、原稿の作成にあたったのは、本年5月からであり、比較的短時間で仕上げることになってしまいました。

国際統計が要望されるようになったことについては、わが国の経済・社会の国際化が進み、2度にわたる石油ショック、貿易摩擦など海外への関心が高まらざるをえない事件がつづいたことが考えられます。海外の事件が国民の生活に直接・間接に大きな影響を与え、諸外国の経済・社会の事情に多くの人々が敏感に反応するようになっていきます。さらに、わが国の経済の規模が拡大し、貿易、資本進出などの面で、国際的にも、大きな役割を果たすことが要求されるようになり、世界のなかで占める日本の地位や役割ということに関心が高まっていることも見逃せないと思います。

本書は、そうした観点から、世界各国の実情を、代表的な統計指標を

用いて紹介するとともに、わが国の地位を明らかにし、さらに主要な事件、条件および枠組みなどについて、解説を試みたものとなっています。できるだけ多くの統計を集め、海外諸国の現状を明らかにしようとしたために、中・高校生にも理解できるように配慮したにもかかわらず、案外むづかしい概念や資料も掲載されておりますし、統計を主体にしたために、読み物というよりは、資料集といった体裁のものになりました。そのうえ、紙数をなるべくおさえようとしたこともあって、主要な事件であっても、説明が不十分であったり、掲載できなかったものもあります。他日、完全を期したいと思います。

本書は、小冊子であります。多くの人々の協力を得ました。ことに、時事通信社出版局長岡田舜平氏、同営業部長山添健一氏、朝雲新聞社代表取締役専務大倉清次氏の3人の方に、解説、資料の転載について、大変にお世話になりました。記して感謝の意にかえさせていただきます。今後本書の内容をより良くし、改訂の機会をもちたいと思いますので、それには、大方の読者のご叱声、ご批判をお願いしたいと思います。

1985年12月

財団法人 矢野恒太記念会

理事長 牧 山 公 郎

*矢野恒太（やのつねた）

慶応 1. 12. 2 ~ 昭和 26. 9. 23

(1866. 1. 18 ~ 1951. 9. 23)

第一生命保険相互会社の創立者。保険界のみならず、統計、公衆衛生、社会教育など各方面に功績があった。

世界国勢図会^{すえ}

財団法人 矢野恒太記念会編

西安电子科技大学

寄贈

一九八八年九月十日

朱田清貴

2000

ま え が き

「日本国勢図会」は、1927年（昭和2年）に、故矢野恒太翁*により創刊されました。それ以来、43版を重ね、多くの読者をえてきました。ことに最近の20年ほどは、出版部数が大幅に伸びました。

それとともに、年々発行される国勢図会では、不十分なことが目立ってまいりました。第1には、古い時代の資料が十分でないという点であります。第2としては、国際的な統計を拡充できないかという要望も多くなってきました。第3に、国内の地域別の資料を充実したいという考えも出てまいりました。

そういうわけで、1981年に「数字でみる日本の100年」を刊行いたしました。ついで、国際統計の出版が予定されましたが、当財団内での体制がととのわず、のびのびになっていました。準備ができて、本書の編纂にとりかかったのは、今年の5月からでありましたが、事実上、原稿の作成にあたったのは、本年の5月からであり、比較的短時間で仕上げることになってしまいました。

国際統計が要望されるようになったことについては、わが国の経済・社会の国際化が進み、2度にわたる石油ショック、貿易摩擦など海外への関心が高まらざるをえない事件がつづいたことが考えられます。海外の事件が国民の生活に直接・間接に大きな影響を与え、諸外国の経済・社会の事情に多くの人々が敏感に反応するようになっていきます。さらに、わが国の経済の規模が拡大し、貿易、資本進出などの面で、国際的にも、大きな役割を果たすことが要求されるようになり、世界のなかで占める日本の地位や役割ということに関心が高まっていることも見逃せないと思います。

本書は、そうした観点から、世界各国の実情を、代表的な統計指標を

用いて紹介するとともに、わが国の地位を明らかにし、さらに主要な事件、条件および枠組みなどについて、解説を試みたものとなっています。できるだけ多くの統計を集め、海外諸国の現状を明らかにしようとしたために、中・高校生にも理解できるように配慮したにもかかわらず、案外むづかしい概念や資料も掲載されておりますし、統計を主体にしたために、読み物というよりは、資料集といった体裁のものになりました。そのうえ、紙数をなるべくおさえようとしたこともあって、主要な事件であっても、説明が不十分であったり、掲載できなかったものもあります。他日、完全を期したいと思います。

本書は、小冊子であります。多くの人々の協力を得ました。ことに、時事通信社出版局長岡田舜平氏、同営業部長山添健一氏、朝雲新聞社代表取締役専務大倉清次氏の3人の方に、解説、資料の転載について、大変にお世話になりました。記して感謝の意にかえさせていただきます。今後本書の内容をより良くし、改訂の機会をもちたいと思いますので、それには、大方の読者のご叱声、ご批判をお願いしたいと考えます。

1985年12月

財団法人 矢野恒太記念会

理事長 牧 山 公 郎

*矢野恒太（やのつねた）

慶応 1. 12. 2～昭和 26. 9. 23

（1866. 1. 18～1951. 9. 23）

第一生命保険相互会社の創立者。保険界のみならず、統計、公衆衛生、社会教育など各方面に功績があった。

目 次

まえがき	3
凡 例	13
第1章 世界の国々	15
(解説欄) 中進国 (15) 国家元首 (16) ヨーロッパの統 合 (17) ナミビア問題 (18) 西サハラ問題 (19) 国際連 合 (20) 英連邦 (30) 国の分類 (43) おもな国際組織 (46) 両極地方 (49) 東西関係の歩み (50)	
第2章 軍備・軍縮	53
(解説欄) 集団的自衛権 (56) 核先制不使用 (57) S D I (58) 国連安全保障理事会 (64) 戦略(核)兵器 (70) NATOとワルシャワ条約機構 (76) 武器輸出 (80) 軍備 管理の歩み (81)	
第3章 人口の増大と食糧問題	85
(解説欄) 国連国際人口会議 (103) 都市化 (113)	
第4章 労働力とその産業別構成	125
(解説欄) 外国人労働者帰国準備促進法 (130) 失業率 (136) 労働集団法 (142) テクノストレス (143)	
第5章 経済成長と国民所得	145
(解説欄) プーメラン効果 (147) 万元戸 (148) 地下経 済 (156) インフラストラクチャー (162)	
第6章 資源とエネルギー	187
(解説欄) 水素エネルギー (192) 海洋資源開発 (203) メタノール (220) スポット原油 (222) レーザー法 (224) 燃料電池 (225)	

目 次

第7章 世界の農業	237
(解説欄) バイオ技術の農業利用 (255) ECの共通農業政策 (258) 土壌浸食(砂漠化) (260) 漁業専管水域 (269)	
第8章 世界の工業	301
(解説欄) スペースラブ (315) アモルファス合金 (316) 低騒音STOL実験機「飛鳥」(317) IBM (322) アラミド繊維 (329) バイオテクノロジー (337)	
第9章 貿易と国際収支	347
(解説欄) 輸入課徴金 (367) ココム (398) リスケジュール (399)	
第10章 財政・金融・物価	401
(解説欄) シティー (401) 米連邦準備制度理事会 (402) プライムレート (403) 欧州通貨単位 (404) デノミ (405) アメリカ合衆国の高金利 (432) ボリビアの物価上昇率 (435) 卸売物価指数の国際統計について (436) ポーランドの対西側債務 (446)	
第11章 運輸と通信	447
(解説欄) 以遠楕 (450) 環太平洋光通信網 (456) 21世紀の船——EMT船 (458) テレポート (462)	
第12章 諸国民の生活	465
(解説欄) アパルトヘイト (476)	
主要参考資料	493

統計表・図の目次

第1章 世界の国々

(表)

- 1 独立国の一覧表……………22
- 2 独立国の国名と政体……………33
- 3 属領の面積と人口……………38
- 4 新しい独立国……………39
- 5 国の分類……………42
- 6 大規模の面積と人口……………45
- 7 世界の宗教人口……………45
- 8 世界の言語……………46

(図)

- 1 世界経済地図の変遷……………21
- 2 世界の面積・人口・人口密度……………32
- 3 地球の陸地面積と海洋面積……………49

第2章 軍備・軍縮

(表)

- 1 各国の国防支出(I)……………60
- 2 各国の国防支出(II)……………62
- 3 各国の兵力比較(1970年)……………65
- 4 各国の兵力比較(1984年)……………67
- 5 米ソの戦略兵器……………70
- 6 NATO軍の通常戦力……………73
- 7 ワルシャワ条約軍の通常戦力……………74
- 8 攻撃兵器制限暫定協定による
米ソの戦略兵器の限度数……………76
- 9 SALT II条約による戦略核
運搬手段の制限……………76

- 10 主な集団安全保障条約……………77

- 11 世界の難民数……………84

- 12 各国の難民受入数……………84

(図)

- 1 国連安全保障理事会の構成……………54
- 2 BMDシステムの想像図……………59
- 3 アメリカ合衆国の
戦略システムの展開図……………71
- 4 ソ連の戦略システムの展開図……………72

第3章 人口の増大と食糧問題

(表)

- 1 世界の人口の推移……………88
- 2 各国の人口の推移……………88
- 3 各国の人口増加率……………92
- 4 人口動態……………96
- 5 年齢別人口構成……………100
- 6 都市人口の推移……………105
- 7 各国の大都市人口……………109
- 8 食糧生産の年平均増加率……………114
- 9 地域別の人口・食糧生産の
年平均増加率……………117
- 10 食用穀物と肉類の自給率……………119
- 11 人口予測……………120
- 12 2000年の年齢階級別人口……………123
- 13 2025年の世界人口……………124

(図)

- 1 各国の人口と人口増加率……………87

2 人口ピラミッド……………	95	7 各国の国内総支出……………	166
3 地域別の都市人口の割合…	104	8 各国の物的純生産の消費…	170
4 地域別の人口、 食糧生産の比較……………	118	9 各国の国内総生産……………	171
第4章 労働力とその産業別構成 (表)		10 各国の産業別国内総生産…	175
1 労働力人口と活動比率…………	131	(図)	
2 産業別の就業人口割合…………	133	1 発展途上国のGDPの 平均年間成長率……………	150
3 年齢階級別の労働力率…………	137	2 国民1人あたり GNPの推移(I)……………	151
4 主要国の失業者数・ 失業率の推移……………	138	3 国民1人あたり GNPの推移(II)……………	151
5 主要国の実労働時間……………	139	第6章 資源とエネルギー (表)	
6 主要国の賃金上昇率……………	141	1 主要国の降水量……………	192
7 主要国の労働争議……………	144	2 金・銀の生産……………	195
(図)		3 白金の生産……………	196
1 主要労働指標の比較……………	129	4 ダイヤモンドの生産……………	196
2 日本を100とした 主要国の賃金……………	142	5 塩の生産……………	197
3 主要国の男女賃金格差……………	143	6 鉄鉱石の生産推移……………	198
第5章 経済成長と国民所得 (表)		7 ポークサイトの生産……………	199
1 世界の生産と貿易の成長…	149	8 銅鉱の生産……………	200
2 発展途上国の成長動向と 対外経済環境指標……………	149	9 鉛鉱の生産……………	201
3 2000年における世界の GNP構成比……………	150	10 亜鉛鉱の生産……………	202
4 各国の国民総生産……………	152	11 主要非鉄金属の 埋蔵量と可採年数……………	203
5 各国の1人あたりの 国民総生産……………	158	12 すず鉱の生産……………	204
6 各国の実質経済成長率……………	164	13 主要希少金属鉱の 生産・消費・埋蔵量……………	206
		14 一次エネルギーの生産推移	208
		15 一次エネルギーの消費推移	210

16 主要国の	
一次エネルギー・燃料別消費…	213
17 一次エネルギーの	
海外依存度と1人あたり消費	216
18 一次エネルギーの輸出入…	217
19 石炭の産出・埋蔵量…	218
20 石炭の消費推移…	219
21 石炭の輸出入…	220
22 原油の産出量と埋蔵量…	221
23 世界の石油消費量…	223
24 世界の原油年間処理能力…	225
25 主要国の原油需給…	226
26 天然ガスの生産と埋蔵量…	228
27 天然ガスの消費推移…	229
28 天然ガスの輸出入…	230
29 ウランの生産と埋蔵量…	231
30 主要国の	
原子力発電所設備利用率…	231
31 世界の	
原子力発電所設備容量…	233
32 世界の発電量…	235
(図)	
1 各種金属鉱の主要生産国…	193
2 各種金属鉱の主要埋蔵国…	194
3 世界の主要塩生産国…	197
4 ポーキサイトの生産割合…	199
5 エネルギー資源の	
主要生産・埋蔵国…	205
6 世界の原子力発電成長予測…	232
7 主要国の	

発電量のエネルギー源別割合 234

第7章 世界の農業

(表)

1 地域別の農業…	241
2 各国の農業…	242
3 地域別の農作物の生産…	247
4 各国の農作物の生産…	248
5 作付面積の地域別の推移…	252
6 主な作物の	
1ヘクタールあたり収量…	253
7 小麦の生産…	254
8 大麦の生産…	254
9 米の生産…	256
10 とうもろこしの生産…	257
11 大豆の生産…	258
12 ばれいしょの生産…	259
13 かんしょの生産…	260
14 野菜の生産…	261
15 果実の生産…	262
16 主な野菜の生産…	263
17 主な果実の生産…	264
18 その他の農作物の生産…	267
19 地域別の農作物の貿易…	271
20 小麦の輸出入…	272
21 大麦の輸出入…	272
22 米の輸出入…	273
23 とうもろこしの輸出入…	274
24 大豆の輸出入…	275
25 飼料の輸出入…	275
26 砂糖の輸出入…	276

統計表・図の目次

27 主な果実の輸出……………	277	8 両鉛地金の生産……………	315
28 農業機械の保有台数……………	279	9 各国の自動車国産化状況…	317
29 肥料の消費量……………	280	10 自動車の国別・	
30 地域別の畜産業……………	282	メーカー別生産……………	318
31 各国の畜産業……………	283	11 主要自動車生産国の輸出先	320
32 世界の家畜頭数……………	287	12 二輪自動車の生産……………	322
33 畜産物の生産……………	289	13 主要造船国の竣工実績…	323
34 肉類の輸出入……………	292	14 ICのおもな用途……………	324
35 森林面積と木材伐採高…	293	15 ICの地域別生産・	
36 木材の貿易……………	296	需要の推移と予測……………	325
37 各国の漁獲高……………	298	16 世界のパソコン地域・	
38 水産物の輸出入……………	300	用途別の出荷推移の予測…	325
(図)		17 工作機械の生産額と貿易額	327
1 農業生産と農業従事者の		18 産業用ロボットの使用台数	328
地域別推移……………	240	19 産業用ロボットの	
2 穀物生産国……………	246	生産長期見通し……………	328
3 主な農作物の貿易量の推移	270	20 世界の地域別	
4 世界の農作物の生産と輸出		石油化学製品需給バランス…	329
に占めるアメリカの割合…	278	21 世界のエチレン生産能力…	330
5 主な国の食肉の消費量…	291	22 肥料の生産……………	331
6 水域別漁獲高……………	297	23 硫酸・カ性ソーダの生産…	332
第8章 世界の工業		24 プラスチックの	
(表)		生産と輸出入……………	333
1 粗鋼生産の推移……………	308	25 おもな有機薬品の生産…	334
2 鋼消費の推移……………	309	26 棉花の生産と輸出入……………	335
3 主要国の鉄鋼輸出……………	310	27 羊毛の生産・輸出入……………	336
4 アルミニウムの生産と消費	312	28 生糸の生産と	
5 すず新地金の生産と消費…	313	各国の生糸国内消費……………	337
6 銅(精銅)の生産……………	314	29 麻類の生産……………	338
7 鉛(精鉛)の生産……………	314	30 化学繊維の生産高……………	339

統計表・図の目次

31 セメント生産高…………… 340	73 各国の国際収支…………… 380
32 パルプ生産と輸出入…………… 342	74 IMF加盟国の 為替取りきめ…………… 387
33 紙類生産と輸出入…………… 343	75 通貨の名称と為替相場…………… 388
34 天然ゴムの生産と消費…………… 344	76 社会主義国の 通貨の名称と為替相場…………… 394
35 合成ゴムの生産と消費…………… 345	77 外貨準備高…………… 397
(図)	78 先進国の経済協力の実績…………… 400
1 おもな国の工業生産指数…………… 306	79 主な発展途上国の 対外債務残高…………… 400
2 主要国の粗鋼生産推移と 地域別の粗鋼生産割合…………… 307	(図)
3 自動車産業の発展段階と 重点政策…………… 316	1 地域別の輸出相手先…………… 351
4 メーカー別の汎用コン ピューター設置状況…………… 326	2 輸出と輸入のランキング…………… 362
5 紙パルプ世界主要交流図…………… 341	3 金価格の推移…………… 396
6 バイオテクノロジーの 技術体系…………… 346	4 経済協力の推移…………… 399
第9章 貿易と国際収支	第10章 財政・金融・物価
(表)	(表)
1 地域別の貿易…………… 349	1 各国中央政府の 財政収支と公債残高…………… 406
2 地域別の輸出相手先…………… 352	2 社会主義国中央政府の 財政収入…………… 411
3 各国の貿易額の推移…………… 354	3 社会主義国中央政府の 財政支出…………… 411
4 1人あたり貿易額・ 貿易依存度・輸出比率…………… 363	4 各国中央政府の経常収入 のうちわけ(1972年)…………… 412
5 アメリカ合衆国の EC・日本との貿易…………… 366	5 各国中央政府の経常収入の うちわけ(1982年)…………… 414
6 ECのアメリカ合衆国・ 日本との貿易…………… 366	6 各国中央政府歳出の 使途別構成(1972年)…………… 416
7 日本のアメリカ合衆国・ ECとの貿易…………… 367	7 各国中央政府歳出の
8～72 各国の商品別貿易 368～379	

統計表・図の目次

使途別構成(1982年)..... 417	3 主要国の道路現況..... 452
8 中央政府財政の規模..... 420	4 自動車の保有台数..... 454
9 国別マネタリーサーベイ... 422	5 二輪自動車の保有台数..... 456
10 各国の金利..... 429	6 世界の商船船腹量..... 457
11 おもな国の公定歩合の推移 432	7 各国の民間航空輸送量..... 459
12 国際商品価格指数と おもな国際商品の価格..... 434	8 主要航空会社の輸送実績... 460
13 物価の上昇が激しい国..... 435	9 主要国の電話機数..... 463
14 物価が安定している国..... 435	10 世界のおもな海底同軸 ケーブル..... 464
15 その他の国の物価上昇率... 436	(図)
16 おもな国の消費者物価指数 の対前年上昇率..... 437	1 主要国の自動車保有台数... 453
17 世界の消費者物価指数..... 440	2 商船の国別・船種別の船腹量458
18 発展途上国の対外公的債務 の状況(I)..... 441	3 通信・情報分野の未来像... 461
19 発展途上国の対外公的債務 の状況(II)..... 442	4 おもな国の郵便取扱数..... 462
20 公的借入の融資条件..... 445	第12章 諸国民の生活
21 東ヨーロッパ6か国の 対西側債務残高の推移..... 446	(表)
(図)	1 各国の乳児死亡率と 平均寿命..... 469
1 中央政府総財政支出の構成 410	2 死因別死亡率..... 472
2 おもな先進国の消費者物価 指数の対前年上昇率..... 436	3 医療関係者1人あたりの人口473
3 発展途上国の対外公的債務 残高上位10か国の状況..... 444	4 結婚率と離婚率..... 475
第11章 運輸と通信	5 1人あたり繊維消費量..... 477
(表)	6 1人1日あたり食料供給量 480
1 各国の鉄道..... 450	7 1人1日あたり供給栄養量 483
2 主要国の鉄道輸送量..... 451	8 就学率・識字率・教育支出 487
	9 書籍・新聞・テレビ・ ラジオの普及..... 490
	(図)
	1 主要国の所得の分配..... 468
	2 たき木の不足している地域 479